

里地里山保全・再生の特徴的取組 個票 A (対象地域の概況)

No.95		上山高原	生物地理区分		コナラ林(西日本)		
			地域区分		奥山周辺		
所在地	都道府県	兵庫県	地形条件	1.山地	2.山麓部	3.丘陵・台地	
	市町村	新温泉町		4.低地	5.その他		
	集落名称等	奥八田	環境要素	1.二次林	2.草地	3.水田	
				4.畑	5.小川・水路	6.ため池	
				7.池沼・湿地	8.社寺林	9.人工林	
				10.その他			

環境要素(対象とする地域に含まれる環境要素)

:面積割合が最大のもの :それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
国立公園	特定植物群落、「重要湿地 500」,「名水百選」,「日本の棚田 100 選」,「農村景観百選」、重要文化的景観、重要有形民俗文化財、重要無形民俗文化財(国指定)
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状
	写真集などの出版物がある、観光パンフレット等に写真が使用されている、風景探勝や撮影の来訪者が多い、自然公園や景観保全のための地域指定がある、景観関連調査(文化的景観等)の対象地となっている



写真の説明：上山高原ススキ



写真の説明：ブナ植え付け

No.95		上山高原		取組主体	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	兵庫県			2.団体・企業・学校等
	市町村	新温泉町			3.行政による支援施策の活用
	集落名称等	奥八田			4.多様な主体が参加・連携する組織体
				5.その他	

取組主体	主な主体の名称	NPO 法人上山高原エコミュージアム			
	その他の主体の名称	兵庫県、新温泉町			
目的 : 主 : その他	<b>3.環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用</b>				
	自然観察会	*	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然林、山野草などの観察、霧ヶ滝、シワガラの滝に代表される多くの滝資源、地域の歴史を学ぶプログラムを実施。(年間 30~40 タイトル)</li> </ul>		
	環境教育・学習活動	*	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兵庫県では、NPO 法人上山高原エコミュージアム、新温泉町をはじめとする多様な主体の参画と協働により、兵庫県北西部但馬地域に位置する上山高原において、その自然やふもとの奥八田集落の文化をまるごと「生きた博物館」として、自然環境の保全や自然と共生した暮らしを学び、実践する「上山高原エコミュージアム」の取組を推進している。</li> <li>・本取組は、平成 13 年 3 月に上山高原自然環境保全・利用方針策検討委員会においてエコミュージアム構想が提案されたことにはじまり、平成 14 年には学識経験者や地元関係者などで構成される上山高原エコミュージアム基本計画策定委員会が設置され、同基本計画が策定されたことから本格的な活動が始まる。</li> <li>・兵庫県、新温泉町、地域住民の活動の活発化に伴い、平成 16 年に NPO 法人上山高原エコミュージアムが設立され様々なソフト事業の展開を開始している。平成 18 年には、上山高原エコミュージアムの拠点施設となるビジターセンター「上山高原ふるさと館」が開館し、地域の自然環境を学ぶことの出来る常設展示や木工細工や草木染めなどを体験することの出来る体験作業室を生かした環境学習プログラムが展開されている。</li> </ul>		
	里地里山体験・環境保全				
	農林業体験活動				
	エコツアー				
	その他				
<b>4.野生動植物やその生息地の保全・管理</b>					
取組内容	30 年前の良好な自然環境を目標像として、現存する落葉広葉樹林を保全するとともに、スギ・ヒノキなどの人工林を間伐し、ブナ、ミズナラなどを植樹する、落葉広葉樹林化事業を実施。また、管理放棄されたススキ草原の管理を再開し、ススキ草原内に密生するササ類や低木類の刈り取り、草原面積拡大の管理を実施。				
連携・協働による取組内容・役割分担等	地元住民が設立した NPO 法人、兵庫県、新温泉町などの多様な主体が参画し、協働でエコミュージアムを運営。				
取組の特徴や強調したい点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草原および森林を個々に捉えるのではなく、エコミュージアムという仕組みを用いて一体的に取り扱い、その生物多様性の保全と持続可能な利用の方策を模索、実践を試みている点。</li> <li>・地域の多様な主体が参画し、協働でエコミュージアムを運営している点。</li> </ul>				

取組の概要	地域住民はじめ多様な主体の参画と協働によるエコミュージアム推進	課題グループ  学習体験 仕組
事例の特性	運営コーディネート機能の整備	
取組の中で他の地域の参考となる点	草原及び森林を一体的に扱うエコミュージアムという手法により高原の生物多様性保全と持続可能な利用を進めるため、NPO 法人を設立し、多様な主体の参画の下で年間 30~40 に及び豊富なプログラムを実施している。	

資料: 「上山高原エコミュージアム(仮称)基本計画」(平成 14 年 3 月 兵庫県)  
 「ひょうごの生き物ふるさとを見守るなかま」(平成 22 年 兵庫県立人と自然の博物館)  
 「上山高原エコミュージアム HP」(<http://www.ueyamakogen-eco.net/>)